

ごみ減量2年連続

日本一



今年6月4日の県内の新聞は、平成18年度の環境省によるごみ排出量の統計を報じました。

それによりますと、人口10万人、50万人の都市で、一人の一日分のごみ排出量はうるま市が755グラムで全国一少ない量となっています。全国平均は、1116グラムです。ちなみに、平成17年度もうるま市は751グラムで全国一最小の、2年連続日本一となっています。

その要因は、ひとえに市民の皆様による日常の努力の賜です。

平成16年度からのごみ袋の有料化と平成19年10月からの粗大ごみの有料化に際し、市内63自治会で説明会を実施してきました。その中で、市民の皆様には「ごみの減量化」を強く訴えてきました。この行政からの要請に対し、市民の皆様がしっかりと応えていただいた結果が2年連続日本一になったと考えます。市民の皆様には深く感謝いたします。

また、一方で私達のうるま市には素晴らしい伝統があります。昔から家庭の生ごみは、家畜の飼料や家庭菜園、畑の肥料として大切に活用してきています。そのため、

1人1日当たりのごみ排出量

人口10万人以上50万人未満	
平成17年度	平成18年度
① うるま市 751.0グラム/人日	① うるま市 755.1グラム/人日
② 佐久市(長野県) 755.0グラム/人日	② 佐久市(長野県) 774.4グラム/人日
③ 筑西市(茨城県) 832.0グラム/人日	③ 小金井市(東京都) 798.8グラム/人日

ごみに占める量は約10パーセントと少なく他市町村や本土の30〜40パーセントに比べるとかなり少ないことが分かります。また、自治会によってはコンポストを活用した生ゴミ処理を進めている所もあります。これらにもその大きな要因があると考えます。

ごみ減量は、ごみ処理予算の節約、CO₂削減、地球温暖化防止につながり、私たち一人ひとりが地球環境に貢献することになります。これからも私達のうるま市は率先して、ますますごみの減量化を推し進めましょう。今後とも市民の皆様のご協力をよろしくお願ひします。

お子さんと一緒に読んでください 犬被害に遭わないために



犬にとって、小さな子どもの動きは、楽しいオモチャに見えてしまいます。それにより、興奮した犬が、子どもを襲うという事故が起こることもあります。逆に、何をするか分からない小さな子どもに対して、恐怖や驚きを感じてしまう犬もいます。それにより、びっくりしたり、おびえた犬が、子どもを咬んでしまうこともあります。

○ まもること

- ① 犬のほうから近づいてきたら目を合わさずうごかない。
- ② 親に聞いてから犬にさわる。
- ③ 飼い主に聞いてからさわる。
- ④ のら犬を見かけたり、行動がやましい犬を見かけたら、すぐに大人に知らせる。
- ⑤ 咬まれたら、すぐに大人に知らせる。

× してはいけないこと

- ① 犬の前を走る。
- ② 知らない犬に近づくと。
- ③ 食事をしている犬に近づくと。
- ④ 生まれた子犬といっしょにいる犬に近づくと。
- ⑤ ねている犬を起こすと。

沖縄県動物愛護管理センター啓発チラシ「犬に咬まれないために」より

犬を近づけないために

犬の嗅覚は人の500倍以上で、臭いの強い酢が大キライです。米酢1対水1を混ぜ「霧吹き」に入れ、犬が近づくと前に自分の周りに吹けば、犬が嫌がります。

環境課

TEL 973-5594